

国立大学法人鳴門教育大学学長候補者の選考結果について

令和3年11月25日

国立大学法人鳴門教育大学学長選考会議

国立大学法人鳴門教育大学学長選考等規則第16条及び国立大学法人鳴門教育大学学長選考等規則実施細則第14条の規定に基づき、最終学長候補者を選考しましたので、公表します。

1 最終学長候補者氏名

佐古秀一（さこ ひでかず 68歳）

2 任期 令和4年4月1日から令和7年3月31日まで（3年間）

3 決定した日 令和3年11月25日

4 選考理由

国立大学法人鳴門教育大学学長選考会議は、かねて策定し公表済みの「望ましい学長像」（参考資料参照）を踏まえ、各候補者に係る学長候補者推薦書・学長候補者調書・主要業績・所信表明書の審査及び面接等の結果を総合的に判断した結果、佐古秀一氏が、本学のこれからを託す学長として最適任であると判断しました。

氏は、長年に亘る大学教員としての教育研究上等の実績に加え、近年では、理事・副学長として様々な改革や取組に当たられ、多大な成果を挙げてこられました。また、その高い見識と学識、優れた指導力、人望の厚さは多くの学内外関係者も認めるところとなっております。

大学を取り巻く諸情勢が厳しい中ですが、氏は、これまでの経験を生かし、今後の本学のさらなる発展・充実のために、明確な展望と方向性、具体的な施策の実現への強い意欲と情熱を有しており、山下一夫学長のご努力を受け継ぎつつ、一層輝かしい本学の未来の構築に全力を傾注してくださるものと期待しております。

5 選考過程

令和3年

9月2日 学長選考会議において、望ましい学長像を策定し、選考日程、その他必要な事項について、学内掲示板及び本学ウェブページにより公表した。

10月1日～10月7日

推薦資格者より学長候補者の推薦を受け付けた。

10月14日 学長選考会議において、受け付けた推薦書等を開封し、推薦を受けた者2名の「学長候補者推薦書」、「学長候補者調書」、「主要業

績」及び「所信表明書」を確認し、次の者を第1次学長候補者（五十音順）とした。

佐 古 秀 一

佐 藤 勝 幸

また、第1次学長候補者の氏名を学内掲示板及び本学ウェブページにより公表した。

11月4日 意向調査（単記無記名投票）を実施した。

11月5日 学長選考会議において、意向調査にかかる開票を行ったところ、次のとおりとなった。

<意向調査結果>

投票資格者数	1 6 7 人
投票者数	1 2 3 人（投票率 7 4 %）
投票総数	1 2 3 票
有効投票数	1 2 0 票
佐古秀一	9 3 票
佐藤勝幸	2 7 票
無効投票数	3 票
（うち白票数）	2 票

学長選考会議は、上記の結果を受けて、次の者を第2次学長候補者（五十音順）とし、11月25日に面接を行う旨、通知することとした。

佐 古 秀 一

佐 藤 勝 幸

また、第2次学長候補者の氏名を学内掲示板及び本学ウェブページにより公表した。

11月25日 11月24日に第2次学長候補者 佐藤勝幸氏 から、最終学長候補者の選考を辞退する旨の申出があった。

このことから、学長選考会議において、佐古秀一氏の第2次学長候補者としての書類審査及び面接等を実施し、総合的に判断して、同氏を最終学長候補者として選考した。

その後直ちに、同氏から学長就任の承諾が得られた。

6 その他

今後、国立大学法人鳴門教育大学は、令和4年4月1日付けで学長に任命していただくべく、文部科学大臣に申し出ることとなります。

望ましい学長像

鳴門教育大学は、学校教育にかかる諸科学の理論的及び実践的研究を総合的に推進するとともに、豊かな教養を培い、人間性に対する多面的な理解と深い人間愛とに支えられた教育者としての使命感をもつ有為な教員を育成し、もって教育、学術及び文化の進展に寄与することを目的としている。この目的を達成するために、鳴門教育大学長は次のような資質・能力に裏付けられた指導力と社会に対する使命感と責任感をもつことが期待される。

1. 学内外から信頼を得るに足りる高潔な人格と優れた学識を有していると認められること。
2. 大学運営に関わる明確なビジョンを有し、積極的に大学を運営できるリーダーシップの発揮が期待できること。
3. 本学と学校教育及び教員養成を取り巻く情勢を的確に理解し、長期的展望と多面的な戦略の下に、教育研究の充実に努め、その成果の社会的還元に積極的に対応することが期待できること。
4. 附属学校園を含む大学構成員の意向を的確に把握し、大学構成員の意欲と創意を最大限に引き出し活かせると期待できること。